

# 4 保護者向け 研修会・講演会パッケージ

Ver.04

(Package 1) PTA役員会、全体会等での講話

群馬県教育委員会特別支援教育課  
令和3年3月

この冊子は、平成26年度から令和2年度エリアサポートモデル校（発達障害理解推進拠点事業を含む。）における実践研究の成果をまとめ、他の小中学校等に普及させる目的で作成しました。

パッケージとは、特別支援教育に係る取組の内容及び方法、連絡・調整の手順や情報など、関連する様々な要素を冊子にまとめたものの名称として使っています。

この「保護者向け研修会・講演会パッケージ」は、PTA役員会や全体会等で実施する研修会や講演会、講話資料、講師などについて、主な内容等を冊子にまとめ、学校で参考にできる形にしたものです。

※ パッケージの種類

- 1 学校サポートパッケージ
- 2 教員研修パッケージ
- 3 児童生徒の障害理解教育パッケージ
- 4 保護者向け研修会・講演会パッケージ（本冊子）

## 4 保護者向け研修会・講演会パッケージ

※ P T A関係行事（本部役員会、各種部会、学習会など）の際に実施

(Package 1) P T A役員会、全体会等での講話	
DATA 1 P T A役員会で30分の講話を実施	実施要領等 【資料1】
DATA 2 学年会で25分の講話を実施	実施要領等 【資料2】
DATA 3 P T A教育講演会で講演を実施	実施要領等 【資料3】
DATA 4 これまで県が依頼した本事業に係る講師一覧	講話等の持ち方【資料4】
DATA 5 これまで県が依頼した講師一覧（再掲）	講師一覧 【資料5】

# 【資料 1】 P T A 役員会で 3 0 分の講話を実施

## 1 目 的

- 域内における発達障害の理解・啓発を図るとともに、特別な支援を必要とする子どもや保護者を地域で支える環境づくりを進めること。
- 障害のある児童と障害のない児童が共に学び合える学校づくりについて、共通理解を図ること。

## 2 主 催

〇〇〇中学校  
群馬県教育委員会

## 3 期 日

平成 2 6 年 1 0 月 3 日（金）

## 4 会 場

〇〇〇中学校 会議室

## 5 内容等

「保護者向けシンポジウム」基調講演（会議室） 1 9 : 0 0 ~ 1 9 : 3 0

講師 県立しろがね特別支援学校専門アドバイザー 尾岸純子 様

テーマ 「子どもの成長を支える支援を考える」

## 6 日 程

P T A 役員会の中で実施

1 9 : 0 0 ~ 1 9 : 3 0 P T A 本部役員 3 0 名を対象

## 【資料 2】 学年会で 25 分の講話を実施

### 1 目的

- 域内における発達障害の理解・啓発を図るとともに、特別な支援を必要とする子どもや保護者を地域で支える環境づくりを進めること。
- 障害のある児童と障害のない児童が共に学び合える学校づくりについて、共通理解を図ること。

### 2 主催

〇〇小学校  
群馬県教育委員会

### 3 期 日

平成〇〇年 6月25日(木) <1年生>  
7月 1日(水) <5年生>  
10月14日(水) <2年生>  
10月20日(火) <3年生>  
10月21日(水) <6年生>  
10月29日(木) <4年生>

### 4 対 象

各学年の保護者及び希望者

### 5 会 場

〇〇小学校 〇〇室

### 6 内容等

演題 「家庭での場面あるある」

講師 群馬県立吾妻特別支援学校専門アドバイザー 中曽根良雄

### 7 日 程

- ・ 学年行事内の25分間を使い、子育て講話として行う。
- ・ 希望者も募ることで、自身の学年会に参加できない保護者も聞けるよう配慮する。

## 学年会での講話 進行例

〇〇小学校 6年子育て講話 進行表

話の大まかな項立て	留意点など
① はじめに <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講師自己紹介</li> <li>・ エリアサポートの簡単な紹介</li> <li>・ 今日の話の項立てを説明</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 6年生たちは、体や心の成長も著しい時期。「もう自分でできる」というプライドや「友達との関係や自分を見つめ直す」といった難しい思春期という時期を迎えています。だからこそ、その気持ちに寄り添い、応援をしてあげるといふ、親の姿勢が大切なのではないかという押さえをしておく。</li> <li>○ エリアサポートは、全ての子に対して行うサポートであることを説明する。</li> </ul>
② 登校前の「あるある」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 起きられない</li> <li>・ 食べるのがゆっくり</li> <li>・ ぼーっとしている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 朝の登校前の様子を想像し、普段どのような言葉かけをしているか、よくある場面を想像する。</li> <li>○ うまくいっていない場合、大人の気持ちと、子どもの気持ちには、かなり差があることを知る。</li> <li>◎ 子どもに共感し、大人の考え方や言い方を少し変えるだけで、その行動の背景にある子どもたちの気持ちに寄り添い、上手に対応できることを具体的に知る。</li> </ul>
③ 宿題をする場面での「あるある」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 宿題は後回しでまず遊んでしまう。</li> <li>・ 宿題をはじめてもなかなか進まない。</li> <li>・ 宿題に取りかかれない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 宿題をする場面を想像し、普段の言葉かけや子どもたちの様子について、よくある場面を想像する。</li> <li>○ 大人の気持ちと、子どもたちの気持ちの差はどうだろうか考える。</li> <li>◎ 子どもたちの色々な事情に共感し、子どもたちへの具体的な言葉かけを考える。</li> </ul>
④ 家庭や学校でのトラブルの場面での「あるある」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ゲームばかり。</li> <li>・ 怒りっぽい。</li> <li>・ 兄弟に意地悪する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 家でのトラブル場面を想像し、普段どのような指導をしているか振り返る。</li> <li>○ 今まで実際に「うまくいった」又は「効果が無かった」経験に分けて考える。(叱っても解決しないことに気づく。)</li> <li>◎ トラブルや容姿の変化には必ずその理由があります。その理由は、その時々によって違いますが、そこをうまく引き出せるといいですね。自尊感情が育ち始めている事を考慮し寄り添う。</li> </ul>
⑤ 何でも使える「どうしたの？」という魔法の言葉ではぐくみたいものは何かを考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 今日のまとめ キーワード「共感」→「どうしたの？」を確認する。</li> <li>・ 「どうしたの」という言葉で、自分の周りには、いつも自分の気持ちを真剣に聞いてくれる人がいること知り、安心する。</li> <li>・ 解決策を自分で考え「ちょっと相談したいんだけど」というタイミングで気持ちに寄り添う事が大切。答えが出せたら、しっかりと認め言葉に出してほめる。</li> <li>◎ 子どもたちも、大人と同じ又は大人以上の過酷な状況下で生活していることを踏まえた上で支援を考える必要があることを知る。</li> </ul>

## 学年会での講話 説明原稿例

### 【話の中で、取り上げたい話題】

- ① 「良いところを伸ばすためには」ほめることが一番です。  
でもほめたらすにいいことばかりしてくれるわけではありませんよね。  
「ほめる・すぐにほめる・感謝する・見守る」温かな目でもこやかな顔をお願いします。  
注意をしたいこともたくさんありますが、先ずはほめられるところをうんとほめます。  
注意しすぎないために「これだけは許せない」事だけ、分かりやすい言葉で短く注意をしてください。
  
- ② 6年生ともなれば「やるべきこと」は、十分に分かっていると思います。ですから、その背景をしっかりと見てあげたいと思います。
  
- ③ 「中1ギャップ」という、言葉がある。  
中学生になると「学習成績(順位)」「学習の速度」「部活動を中心とする人間関係」「思春期の心の不安(自分)」など多くの悩みや環境の変化を経験する。  
だからこそ、周囲の大人が「どうしたの?」という言葉を使って心に寄り添うことや、悩みについて一緒に考えるというスタンスが必要なのではないのでしょうか。でも、重たくなならないようにすることも必要ですし、時にはしっかり時間をかけて、気持ちを聞くことも必要ですね。
  
- ④ 理想と自分の現実の狭間で「自分なんて嫌い」という気持ちも出てきます。そこで「〇〇はそういう所がすごいよね!」などと軽い雰囲気や伝えたり、親から見て「人として尊敬する所」を積極的に伝えてあげたりすることも大切ですね。

### 【まとめ】

子育ては毎日疲れます。

でも、毎日見ている子どもたちの顔もいつもと違う場所で親戚の人などと話す子どもたちの顔は、ちょっと大人びて見えることも有りますね。

子どもたちは、日々成長しています。そして、「一人の人間として」という関わりも必要になってくるのではないのでしょうか?

そうした思春期を迎えた子どもたちにも「どうしたの?」という言葉で支えてあげられたら、子どもたちもお父さんやお母さんの「僕の応援団」の声をきくと聞いてくれるはずですよ。

## 家庭での登校前の場面 あるある

早く起きてね！早く食べて！  
急いで支度して！

- ▶ 夜遅くまで起きているからでしょ！
- ▶ ご飯を食べるのがゆっくりで！
- ▶ ぼーっとしてないでね！。

子育てで忙しく、ストレスも多いです  
ね！でもちょっと待ってください！

子どもにも子どもの事情がありますね！  
もしかすると勉強や友達、中学校進学への  
心配事等があるかもしれませんね！

どうしたの！ちょっと心配事  
があるのかな？

- ▶ あれっ!と思ったときの一呼吸！
- ・夕べは、早く布団に入ったはずだけど！
- ・友達とうまくいってないのかな？
- ・勉強で心配事でもあるのかな？
- ・なんだかずっと食欲がないみたい！



だって！  
お母さん  
には言え  
ない！

## 家庭での宿題の場面 あるある

いつもと同じだよね！  
来年は中学生なんだから！

- ▶ やらなきゃいけないんだから、早く終わりにしてほしい。
- ▶ 自分で何でも、どんどんやってくれるとうれしいんだけど。
- ▶ いつも同じなんだから早くやってよ。

私たちも、日によって「気持ちが軽い日」と、  
「〇〇ちゃんに誘われたから」という都合があ  
る日がありますよね！

課題は毎日同じでも、子どもの事情（体調や心の様子）  
はそのときで違いますね！「言われなくても分かってる」という気持ちも！

どうしたの！終わったらおや  
つにしようか？

- ▶ あれっ!と思ったときの一呼吸！
- ・疲れているのかな？
- ・学校で何かいやなことがあったかな？
- ・課題が分からないのかな。
- 勉強も難しくなってきたものね？
- ・そうか〇〇さんとの関係も大切だね！



いちいち色々言わ  
ないで！



## 家庭や学校でのトラブルの場面 あるある

### 友達とうまくいって？

- ▶ 最近、〇〇さんと遊ばないのね。
- ▶ 友達の家でゲームばかり。
- ▶ 最近、家でもイライラ。すぐに怒り出すのよね！
- ▶ 兄弟にも意地悪するし、もう少し優しくね！

少しほっといてほしいんだけど！  
(僕の事情も考えてよ。)

この時期の子どもたちは、友達との関係性が非常に大きく他人の目が気になり、「自立心と甘え」が共存する時期でもあります！



自分でなんとかしたい！でも心配だし、不安がいっぱい！

### どうしたの！けがはないの？

- ▶ あれっ!と思ったときの一呼吸！
  - ・最近、仲良しだった〇〇ちゃんと遊んでいない様子だけどどうしたのかな？
  - ・一人になりたいのかな？
  - ・悩み事があるのかな？



この時期のお子さんは、なかなか悩みも打ち明けてくれませんが、もしかすると「どうしたの？」で、心を開いてくれるかもしれません。

### 「どうしたの？」の効能

- ▶ 「お父さんやお母さんはいつでもあなたのことを気にかけているよ。」という、自分に関心を寄せてくれているうれしさ。
- ▶ 「悩んでいるけど、お父さんやお母さんには恥ずかしいし、打ち明けられない。」という、事情も受け止めてくれる安心感。

### 「共感する」とは！

- ▶ 「いつでもいいから、相談したくなったらね！」と子どもたちの心の整理ができるまで待つとあけるよという共感。

もしも、相談してくれたら「**あなたは、どう考えているの？**」と**本人の気持ちを大切にしながら一緒に考える！**

相談したくなったら、いつでもいいよ！



今日お話ししたことは、それぞれの個性やそのときの体調や気持ち等子どもたち一人一人に寄り添って子育てをしましょうというお話でした。また、子どもたちは中学校へ進学を迎え何かと心配な事があるかもしれません。自分を否定する時期でもありますね。

しかし、「そう、それが君のいいところだね」と言葉にして、本人の不安を少しでも和らげ「そういう君が大好きだよ!」という事をしっかり伝えましょう。

是非、多感な時期に、子どもたちの思いに耳を傾けてあげてください。

本日のキーワード

「 ? 」 「 」 「 」

ご清聴ありがとうございました!

## 【資料3】PTA教育講演会で講話を実施

### 1 目的

- 域内における発達障害の理解・啓発を図るとともに、特別な支援を必要とする子どもや保護者を地域で支える環境づくりを進めること。

### 2 主催

〇〇〇小学校  
群馬県教育委員会

### 3 期日

平成26年11月16日（日）

### 4 会場

〇〇〇小学校 体育館

### 5 内容等

「発達障害理解啓発シンポジウム」の実施 10:45～12:05

講師 大阪大学大学院 和久田 学 様

テーマ 「子育てを科学する」

### 6 日程

PTA教育講演会として実施

10:45～12:05 PTA会員 約100名を対象

## 【資料 4】 講師を招いての講義・講話の持ち方

◎事例 「子育てを科学する」 (80分の講義)

- ・ 子どもの心と脳の発達 (20分)

- ・ 子どもを巡る状況
- ・ 脳の研究
- ・ 行動の支援 (ABAの基本的考え方)

- ・ いじめの問題 (20分)

- ・ いじめの問題のリスク
- ・ いじめの定義
- 4つのキーワード

- ・ みんな違って、みんないい (20分)

- ・ ほめ方、叱り方 (叱ることのリスク)
- ・ 我が子の理解 (多軸で発達を見る、  
違っていることを認める、特に学び方の違い)

- ・ 「ルール」のとらえ方 (20分)

- ・ よくありがちなルール
- ・ 何が問題なのか
- ・ ルールが崩れる理由
- ・ ルールを設定するために
- ・ ルールを分かりやすく
- ・ ルールの指導方法を明らかにする
- ・ 教室の「当たり前」を確認する
- ・ 当たり前が当たり前か

※ 上記は是非ききたい内容群で、下線部は特に聞きたい内容とした。

# P T A 教育講演会での講話 資料

子どもの発達科学研究所

## ☆子育てを科学する☆

～子どもたちの健全な成長を願って～



子どもの発達科学研究所  
和久田学  
(大阪大学大学院 特任講師)

子どもの発達科学研究所  
子育てのリスク

### 子どもたちの将来はどうなるんだろう？

- ▶ 凄然とした将来への不安
- ▶ 様々なリスク
- ▶ 理想と現実

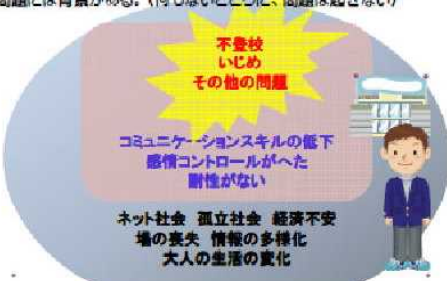
▶ 親にとって子育ては初めての体験、誰に教えてもらったらよいのか？

◎過去の体験(自分が育てられた経緯、親が自分や兄弟に行ったこと)を中心に判断するしかない

・ しかし、それが正しいのか、わからない

子どもの発達科学研究所  
子育てのリスク

問題には背景がある。(何もないところに、問題は起きない)



**不登校  
いじめ  
その他の問題**

コミュニケーションスキルの低下  
感情コントロールがへた  
断性が低い

ネット社会 孤立社会 経済不安  
場の喪失 情報の多様化  
大人の生活の変化

子どもの発達科学研究所  
子育てのリスク

### 獲得することは捨てること

- ・ 携帯電話を得て失ったもの
- ・ ゲーム機を与えて奪ったもの
- ・ インターネットを得て奪われたもの

子どもをめぐる状況は大きく変化した

今まで経験できたことが、できなくなった

子どもの発達科学研究所  
いじめの問題

## いじめの定義

- ・ いじめとは、「反復と力の不均衡によって特徴づけられる攻撃行動の一部」または「人またはそれ以上の者のネガティブな行為に、連続して、長期的にさらされること」と定義される。(Olweus, 1991, 1993)

Key Words (Bondsら 2001)

力の不均衡 繰り返される行動  
意図的なネガティブな行動 不公平な影響

子どもの発達科学研究所  
いじめの問題

### いじめを定義づける4つのキーワード

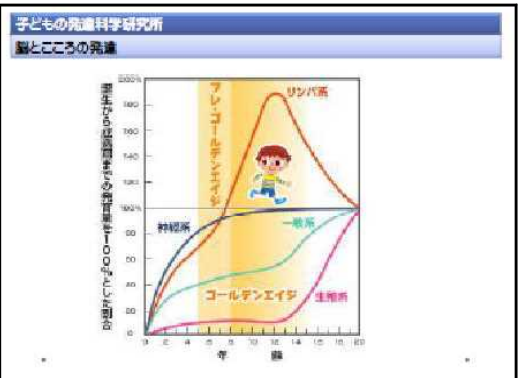
- ・ **力の不均衡**: 肉体的、精神的、知的、社会性などの差
- ・ **繰り返される行動**: 一定期間、繰り返されるネガティブな行動(ただし1回でも深刻な場合あり)
- ・ **意図的なネガティブな行動**: いじめは被害者を意図的に傷つけたり辱めたりする行動。
- ・ **不公平な影響**: 被害者は通常、わめいたり泣いたり、うつになったり不安になったりといった感情的な反応を見せる。一方、加害者は苦悩や感情を見せることはほとんどない。加害者は共感性を失い、「被害者は虐められて当然だ」のように見ることが多い。つまり加害者は自分の行動が正義であるかのように思っている。

子どもの発達科学研究所  
いじめの問題

### いじめ関係が難しい理由

- ・ **力の不均衡**があるから、被害者はやり返せない。  
→ やり返せるなら、ケンカ。  
→ やり返せないから困っている。  
→ よって、被害者に「やり返せばいい」は無意味。
- ・ **不公平な影響**があるから、加害者は気づけない。  
→ 加害者は、いつの間にか加害者になっているかもしれない。  
→ 特に、そういう文化があるところでは、気づけない。

だからいじめ関係は、保持され、深刻化しやすい



子どもの発達科学研究所  
脳とこころの発達

## 発達障がいのこと

- 「自閉症スペクトラム (ASD)」「注意欠如多動症 (ADHD)」「学習障がい (LD)」などが話題になっています。10人に1人程度、そのような傾向のある子どもがいると言われています。
- 発達障がいは、既にマイノリティ (少数派) ではありません。
- 発達障がいは、本人の努力不足でも、子育ての失敗でもありません。脳の機能障害です。
- 適切な支援をしないと状態が悪くなり、よくない支援をすると悪化するの、他の子どもと同じです。

子どもの発達科学研究所  
脳とこころの発達

## 発達障がいかな？と思ったら

- 個人攻撃の責にはまらない！ (家族で傷つけ合うのは意味がない)
- 「発達障がい=不幸」でも「発達障がい=悪」でもありません！ (アインシュタイン、ビルゲイツ、スティーブンスビルバーグ、黒柳徹子、緒田信長… 発達障がいには偉人がたくさん！)
- 早期発見、早期支援にまさはりありません。専門家を上手に使いましょう。
- 早期支援の第一歩は、「理解」です。
- 発達障がいの子どもたちは、「当たり前」のことが「当たり前」にできません。「当たり前」を意図的に教える必要があります。

子どもの発達科学研究所  
脳とこころの発達

## 日本の子育て文化として

- 日本は「みんなと一緒に」を重んじる。
- 「みんなと一緒に」ができて当たり前。
- 「当たり前」ができないと叱られる。
- 「当たり前」は「当たり前」だから教えてもらえない。
- 「当たり前」は「当たり前」だから、できても褒めてもらえない。

・ 当たり前ができない子ども…例えば発達障がい児は？

子どもの発達科学研究所  
「行動」を育てるために

## 行動を育てるには？

行動を育てるには、「やる気」(意欲)が必要ですよ。

今のままで、OKと思っていたら、何も変えられません。

逆に「やる気」さえあれば、何か(行動を)変えられます！

子どもの発達科学研究所  
「行動」を育てるために

## やる気にさせるには？

基本はみんな一緒です。

皆さんご自身に置き換えて、考えてください。(ただし、特別な例もありますので、注意してください)

あなたは、どんなときにやる気になりますか？

- これは、「いいことが起こる」から、やりましょう。
- これは、「得をする」から、やりましょう。
- これは、名譽を得られるから、やりましょう。
- これは、「良いこと」だから、やりましょう。

子どもの発達科学研究所  
「行動」を育てるために

## その他、気を付けたいこと

- 子どもに選択権を与える。  
選択させると、責任を教えられる。
- 「言葉」を大切にしながら、「言葉」を信じすぎない。  
本当に大切なことは、言葉にならない。
- 子育ては、時間がかかること。すぐに結果を求めない。  
大変な時間を一緒に過ごすことも大切

子どもの発達科学研究所  
「行動」を育てるために

## 子どもに「教える」ときに・・・

- その子にとっての「わかりやすさ」を考える
- 何よりも意欲をなくさないように
- 叱っても意味はない

子どもの発達科学研究所  
「行動」を育てるために

## 「叱る」の影響

「叱られる」のは、嫌なので、そのときは、やめます。  
でも、「叱る人」がいないときは、元通りになるかもしれません。

「叱られながら覚えたこと」は、嫌な思い出がくっついています。  
だから、あまりやりたくないことになるかもしれません。

「叱った人」に、反発を感じます。(カウンターと言います)  
相手が強いと、そのときは我慢しますが、どこかで出てきます。

「叱る」では、脳は活性化しないので、だから、効率が悪いかもしれません。

# 【資料 5】 これまで県が依頼した本事業に係る講師一覧

## ○ すべての教員対象研修

### 1 外部講師(敬称略)

講義(H26,27) 大阪大学大学院(大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学)  
連合小児発達学研究所 特任講師 和久田 学

「子どもの行動を考える ～新しい生徒指導～」(H26)  
「発達障害等、特別な支援を要する児童の理解と支援」(H26)  
「特別支援教育に係る校内体制について」(H26)  
「子どもの育ちを考える」(H26)  
「子どもの行動を考えた新しい生徒指導」(H27)  
「子どもの行動を育て、支援する」(H27)  
「子どもを科学的にとらえた新しい生徒指導」(H27)  
「子どもの行動を考えた『学校としての取組』」(H27)  
「子どものこころの発達に寄り添う～科学的根拠に基づいた支援のあり方～」(H27)

講義(H26) 名城大学大学院 曾山 和彦  
「特別支援教育の視点と学びのユニバーサルデザイン」

講義(H26~R2) NPO法人リンケージ理事長 石川 京子

「分かりやすく伝えるために」(H26)  
「発達障害等のある生徒理解と具体的対応について」(H27)  
「特別支援教育の考え方を踏まえた指導・支援」(H29)  
「子ども一人一人の理解とその支援方法」(H29)  
「発達障害のある生徒理解と対応方法について」(H30)  
「特別支援教育の考え方を踏まえた指導・支援」(R1)  
「発達障害の理解と支援～本人・保護者・周りへの対応を例に～」(R1)  
「特別支援教育の考え方を踏まえた指導・支援」(R2)  
「発達障害の理解と支援～本人・保護者・周りへの対応を例に～」(R2)  
「発達特性の5つグループから対応を考える」(R2)

講義(H27,29) 日本大学文理学部心理臨床センター 臨床心理士 加藤 弘美  
『発達障害の特性理解』について  
「発達障害の特性・理解について」

講義(H27~R1) anomira 代表(作業療法士) 北爪 浩美  
「発達障害のある子どもへの支援」(H27)  
「発達障害のある子どもへの支援」(H29)  
「発達障害の理解と発達障害のある子どもへの支援」(H30)  
「発達障害のある子ども理解のために知っておきたいこと」(H30)  
「発達障害のある子供への支援」(H30)  
「発達障害のある子供への支援」(R1)

講義(H28) 日本授業UD学会 埼玉支部副代表 笠原 三義  
「授業のユニバーサルデザイン」

講義(H29,30) 国立重度知的障害者総合施設のぞみの園 臨床心理士 小池 千鶴子  
「子どものこころの発達に寄り添う～二次障害の実態とその予防～」

## 2 特別支援教育課指導主事

講義(H26) 群馬県教育委員会特別支援教育室指導主事 高橋 玲  
「特別支援教育の視点を取り入れた授業の実際」

講義(H27) 群馬県教育委員会特別支援教育室指導主事 井草 昌之  
群馬県立吾妻特別支援学校専門アドバイザー 中曾根 良雄  
「どの子にも分かる・できるためのユニバーサルデザインの具体例・実践例の紹介」  
「わかって、楽しい授業をするために～気になる子へのサポートから～」

講義(H28) 群馬県教育委員会特別支援教育課指導主事 近藤 千香子  
「特別支援教育の視点を取り入れた授業」

講義(H29) 群馬県教育委員会特別支援教育課指導主事 狩野 等  
「発達障害の正しい理解について」



講義(H29,30,R1) 群馬県教育委員会特別支援教育課指導主事 宮村 奈々江  
「発達障害の理解と支援」

講義(H29) 群馬県教育委員会特別支援教育課指導主事 藤生 雅代  
「分かりやすく伝えるために」

講義(H29) 群馬県教育委員会特別支援教育課 指導主事 井草 昌之  
群馬県立吾妻特別支援学校専門アドバイザー 中曽根 良雄  
「わかる授業をするための近道」

講義(H30) 群馬県立特別支援学校専門アドバイザー 長谷川 健之  
群馬県教育委員会特別支援教育課指導主事 長谷川 剛広  
「わかりやすい授業の基本として押さえておきたい項目」

講義(R1) 群馬県立高崎特別支援学校専門アドバイザー 大塚 紀仕子  
群馬県教育委員会特別支援教育課指導主事 菅野 剛  
「わかりやすい授業の基本として押さえておきたい項目」

講義(R1) 群馬県教育委員会特別支援教育課指導主事 菅野 剛  
「発達障害の正しい理解について」

講義(R1) 群馬県教育委員会特別支援教育課指導主事 長谷川 剛広  
「みんなが活躍できる授業を実施するために押さえておきたいこと」

### 3 特別支援学校専門アドバイザー

講義(H26) 群馬県立高崎特別支援学校専門アドバイザー 狩野 進  
「通常学校における特別な支援の必要な児童への具体的な支援」

講義(H26,R2) 群馬県立しらがね特別支援学校専門アドバイザー 尾岸 純子  
「特別な配慮が必要な子へのかかわり方」  
「通常の学級における発達障害児の支援について」

講義(H27) 群馬県立館林高等特別支援学校専門アドバイザー 中里 真利子  
『発達障害特性理解』～学習障害（特に「読み書き障害」）に焦点を当てて～

講義(H28,R2) 群馬県立渡良瀬特別支援学校専門アドバイザー 植木 あゆみ  
『気になる子』への配慮～授業でのポイント～  
「発達障害について～気になる子への理解と支援」

講義(H28) 群馬県立館林特別支援学校専門アドバイザー 須永 里紗  
『気になる子』への配慮～授業でのポイント～

講義(H30) 群馬県立富岡特別支援学校専門アドバイザー 神田 珠美  
「通常の学級における特別支援教育～特別ではない特別支援教育を目指して～」

講義(R2) 群馬県立藤岡特別支援学校専門アドバイザー 齋藤 裕章  
「発達障害の理解と支援～連続性を感じながら～」

講義(R2) 群馬県立沼田特別支援学校専門アドバイザー 長谷川 健之  
「特別支援教育について」

○ 専門性向上研修

班別協議 大阪大学大学院 連合小児発達学研究所 特任講師 和久田 学  
 (H26) NPO法人リンケージ理事長 石川 京子  
 「発達障害等、気になる生徒に係る情報の共有」

ケース会議 群馬医療福祉大学 リハビリテーション学部 教授 北爪 浩美  
 (H26) 群馬大学医学部附属病院 精神科神経科 医師 藤平 和吉

ケース会議 群馬大学医学部附属病院 小児科 医 師 岡田 恭典  
 (H27) 群馬大学教育学部 臨床心理士 安田 淑美  
 NPO法人リンケージ 理事長 臨床心理士 石川 京子

ケース会議 あがつま相談支援センター 臨床心理士 八重樫 陽子  
 (H27,28) 群馬リハビリテーション病院 作業療法士 市川 亮太

ケース会議 群馬大学教育学部 教授 霜田 浩信  
 (H27) NPO法人リンケージ 理事長 臨床心理士 石川 京子  
 スクールカウンセラー (太田市担当) 伊藤 洋子  
 群馬医療福祉大学 リハビリテーション学部 教授 北爪 浩美

ケース会議 国立重度知的障害者総合施設のぞみの園 臨床心理士 小池 千鶴子  
 (H28, 29)

ケース会議 スクールカウンセラー 伊藤 洋子  
 (H28) NPO法人リンケージ 理事長 臨床心理士 石川 京子  
 群馬県立沼田特別支援学校専門アドバイザー 長谷川 健之

ケース会議 群馬県立富岡特別支援学校専門アドバイザー 神田 珠美  
 (H29) 群馬県立吾妻特別支援学校専門アドバイザー 中曽根 良雄  
 群馬県教育委員会特別支援教育課指導主事 藤生 雅代  
 群馬県立館林特別支援学校専門アドバイザー 須永 里紗  
 anomira 代表 作業療法士 北爪 浩美

ケース会議 anomira 代表 作業療法士 北爪 浩美  
 (H30) 国立重度知的障害者総合施設のぞみの園 臨床心理士 小池 千鶴子

演習(H26) 群馬県教育委員会特別支援教育室指導主事 高橋 玲  
「ケース会議(60分)の進め方」

演習(H28) 群馬県立渡良瀬特別支援学校専門アドバイザー 齋藤 裕章  
「発達障害等、気になる児童に係る学びの場について」

講義(H27) 群馬県立渡良瀬特別支援学校専門アドバイザー 植木 あゆみ  
「ケース会議の進め方」

○ 児童生徒を対象とした障害理解教育

講演(H26) 国立重度知的障害者総合施設のぞみの園診療部長 医師 有賀 道生  
「自信をもって生きよう - 自己肯定感を高めるために -」

授業(H26) 群馬県教育委員会特別支援教育室指導主事 井草 昌之  
群馬県立高崎特別支援学校専門アドバイザー 狩野 進  
「自分で考えて行動しよう」(学級活動(2)ウ)

授業(H26) 群馬県教育委員会特別支援教育室指導主事 近藤千香子  
群馬県立渋川特別支援学校専門アドバイザー 齋藤 裕章  
「得意なこと、苦手なことについて考えよう」(道徳2-(2))

授業(H27) NPO法人リンケージ 理事長 石川 京子  
東毛若者サポートステーション 真木 寛

授業(H27) 群馬県立吾妻特別支援学校専門アドバイザー 中曽根 良雄  
「いいところを見つけよう」(3年学活)  
「うれしくなる言葉を見つけよう」(4年学活)  
「チームビルディング」(5年学活)  
群馬県教育委員会特別支援教育室指導主事 井草 昌之  
「自分で考えて行動しよう」(6年学級活動(2)ウ)

授業(H28) 群馬県教育委員会特別支援教育課指導主事 井草 昌之  
「障害を感覚的に理解する」(中1道徳)

授業(H29~R2) NPO法人リンケージ 理事長 石川 京子  
「チームビルディング」

○ P T A 役員、保護者等を対象とした研修会・講演会

1 外部講師

講義(H26,27) 大阪大学大学院連合小児発達学研究所 特任講師 和久田 学  
「子育てを科学する」  
「子どもの行動を科学的にとらえて支援する」

講義(H27) 群馬大学非常勤講師 臨床心理士 安田 淑美  
「さまざまな子どもの発達を考える」

講話(H27,R1) anomira 代表(作業療法士) 北爪 浩美  
「子どもを育てる魔法の言葉」  
「子どもの成長を促す接し方～脳の発達に視点を当てて～」

講話(H28) 障害者相談支援センター希望の家 相談支援専門員 星野 敏江  
「子どもを育てる魔法の言葉」

講話(H28) 群馬県立発達障害者支援センター 金子 章子  
「ほめる・認める子育てのポイント～否定的な関わりから肯定的な関わりへ～」

講話(H29) 日本体育大学 児童スポーツ教育学部 准教授 宇部 弘子  
「子どもを伸ばすための正しい理解と適切な支援のあり方」

講話(H30) 国立重度知的障害者総合施設のぞみの園 臨床心理士 小池 千鶴子  
「ほめて育てる子育てのコツ」

講話(H30,R1) NPO法人リンケージ 理事長 臨床心理士 石川 京子  
「今日からできる子どもの自信を育むかわり」  
「子育ておけるヒント～上手なほめ方と伝え方～」  
「みんな違ってみんないい～心と脳の発達～」

講話(R1) 玉村町立芝根小学校スクールカウンセラー 大場 陽子  
「子どもたちの最適学習環境～特別を特別ではなくす日常のために～」

## 2 特別支援教育課指導主事

講話(H29) 群馬県教育委員会特別支援教育課指導主事 狩野 等  
「子どもの発達とかかわり方について～上手なほめ方と叱り方～」

## 3 特別支援学校専門アドバイザー

講話(H26,R2) 群馬県立しろがね特別支援学校専門アドバイザー 尾岸 純子  
「子どもの成長を支える支援を考える」  
「自分に自信を持てる子を育てるための秘訣」

講義(H27,28) 群馬県立吾妻特別支援学校専門アドバイザー 中曾根 良雄  
「家庭での場面あるある」

講話(H29) 群馬県立富岡特別支援学校専門アドバイザー 神田 珠美  
「子育て講話」

講話(H29) 群馬県立館林特別支援学校専門アドバイザー 須永 里紗  
「ほめて育てる、子育てのコツ」

講話(H30) 群馬県立渡良瀬特別支援学校専門アドバイザー 植木 あゆみ  
「子育て講話」

講話(R1) 群馬県立吾妻特別支援学校専門アドバイザー 田中 由香里  
「子育て講話」

講話(R1,2) 群馬県立沼田特別支援学校専門アドバイザー 長谷川 健之  
「子育て講演会」  
「子育てについて」